

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 20 日現在

機関番号：35409

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02482

研究課題名（和文）井伏鱒二未公開書簡の基礎的研究 文学の生成と「同学コミュニティ」の関係を視座に

研究課題名（英文）The Basic research on the unpublished letters from IBUSE Masuji

研究代表者

青木 美保（秋枝美保）（AOKI, Miho）

福山大学・人間文化学部・教授

研究者番号：40159330

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：井伏鱒二未公開書簡の宛名人高田家の調査で、高田類三関係手稿、高田宛文化人の書簡を多数確認、福山中学における絵画サークルの活動と高田の文学活動の実態を解明し、「同学コミュニティ」の存在を実証するとともに、その井伏文学形成への影響を示した。その成果は、井伏伝記研究、書簡の表記史上の特徴、文学史上の井伏文学の位置付け、1910年代～20年代における美術史と文学史の交流、文学表現における絵画表現の影響という研究メンバーの5つの分野から論文化し、報告書を作成した。さらに、対象を同時代の宮沢賢治に広げて「地方同学コミュニティ」を解明する新たな研究を科研費に応募し、採択された（2020年度～2024年度）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義については、第一に、井伏鱒二の伝記研究に新たな事実を提示したこと、第二に、日本近代文学における大正文学史解明に、文学形成における作家の出身地の「同学コミュニティ」の影響という新たな視点を開いたこと、第三に、1910年代～1920年代の文学形成に、絵画表現の影響という新たな視点を開いたこと、第四に、手稿研究において、表記史の観点から「国語」第一世代の用字意識の解明の端緒を開いたことの4点が挙げられる。

社会的意義については、「井伏鱒二未公開書簡」研究から、地方在住文学者の存在、及びその背後の地域の歴史文化、ひいては一地方に留まらない地域文化の価値に関する視野を開いたことにある。

研究成果の概要（英文）：We examined the items left in the home of TAKATA Ruizo, who received unpublished letters from IBUSE Masuji. The research has revealed that there are many manuscripts of TAKATA Ruizo, many letters written by cultural figures to him, and he had a large library of books and magazines on literary. The following two points were identified: 1) the activities of "Someirol-Kai" at Fukuyama Junior High School; 2) the reality of TAKATA's literary activities. Then we showed how they influenced the formation of IBUSE's literature. We have published in five areas: the study of the biography of IBUESE, the characteristics of the notation history of letters, the position of IBUSE's literature in literary history, the exchange between art history and literary history in the 1910s and 20s, and the influence of pictorial expression on literary expression. Extending the scope of research to MIYAZAWA Kenji, we applied for the KAKENHI, and was adopted (FY2020-2024)

研究分野：日本近代文学

キーワード：井伏鱒二 同学コミュニティ 1910年代文学 大正文学史 地方文化史 書記史 文学形成論 文学と絵画

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

井伏鱒二書簡は『井伏鱒二全集』(筑摩書房、1996年～2000年)には収録されていない。これまでの公刊された書簡集は4冊あるが、これらに取り上げられた書簡は全て戦後の書簡である。そのような中で注目されるのは、東郷克美氏によって紹介された、早稲田大学の同期生・田熊文助宛の大正13年を中心とする書簡14通であった(『日本近代文学館年誌 資料探索』6、2010年10月)。本研究の対象とする未公開書簡(高田類三・福山中学の同窓生宛書簡150通余、以下高田宛書簡)は、大正6年に始まる大正期の書簡73通、昭和戦前期の書簡25通を含み、これが過半を占める。この井伏二十歳代の書簡は、文壇登場以前の青春彷徨時期の伝記的空白を埋める空前の資料である。青木美保(研究代表者)は、10年来の井伏文学フィールドワークで出会った本書簡の所有者・高田奎吾氏から2016年に本書簡の研究を委託された。

その後、井伏文学研究者の前田貞昭氏の協力を得て翻字を進めた結果、書簡の宛名人高田類三とは、福山中学時代の絵画サークルの仲間同士であり、書簡の話題が美術、演劇など文化全般にわたり、井伏の文学形成に重要な影響を持つことが判明した。それは、井伏の文学形成が出身地の福山中学での活動にさかのぼることを示していた。本研究費申請にあたり、研究組織では、近代文学研究の分野で、地域文学研究という観点から青木が研究代表者を務め、これに、井伏文学実証研究という観点から前田貞昭、日本文学史研究という立場から国土館大学の平浩一、国語史研究の立場から井伏書簡の国語史的特徴を分担する兵庫教育大学大学院教授田中雅和、日本近代美術史研究の立場から1910年代の文学と美術の関係についての研究を担う大川美術館館長田中淳が加わった。このような研究組織を編成し、1910年代に出身地で中学時代を過ごした井伏の文学形成について、「同学コミュニティ」という観点から研究する計画を立てた。

2. 研究の目的

本研究は、井伏鱒二の未公開書簡(高田類三・福山中学の同窓生宛書簡162通大正6年～昭和40年)を対象として、書簡の活字化と、文化史的側面を視野に入れた注解を附すことを目的とする。その注解は、ア、旧制福山中学同窓生の文化サロンの活動、イ、その周辺にあった地域の文化活動、ウ、中央の文化との交流の様相の解明によって、初めて可能になる。この注解作業は井伏文学揺籃期の解明を目的とするものであるが、延いては1920年代文学の共時的研究に、地方文化史との関係性という新たな分野を開く先端的な事例研究となりえた。

3. 研究の方法

第一は書簡の活字化、第二は井伏と福山中学の同学コミュニティにおける文化交流の過程を明らかにする調査、第三は備後地域(福山市及びその周辺地域)の文化交流状況、中央の文化人との交流状況の調査である。本研究においては、これについて、三つの方面から迫る。第一には手稿活字化のあり方の再検証と、それを生かした書簡の活字化、第二は井伏鱒二の出身校・福山中学、及び中学同窓生の活動、地方紙、文芸同人誌における地域全般の文化活動についての文献調査及び聞き取り調査、第三は、本書簡の文学史・文化史的意義を同定する総合的な考察である。

具体的には、2017年度・2018年度に、以下三回の調査を行った。

第1回(2017年6月3日)高田家家蔵資料予備調査(調査者、前田・青木・研究協力者1名)では、井伏鱒二未公開書簡の内容確認、高田類三関係手稿、書籍、高田宛文化人の書簡を多数

確認した。第2回(2017年9月6日・7日)高田家家蔵資料本調査(調査者、青木・前田・研究協力者1名)では、井伏鱒二未公開書簡および、新たに発見された井伏書簡を併せて173通を整理した。第3回(2018年3月25日・26日)高田家家蔵資料追加調査(調査者、青木・前田・研究協力者1名)では、類三の手稿(歌集、日記等)を確認、一部撮影を行った。

これらの調査を踏まえて、多分野の研究成果を総合するために、研究メンバーと、地域の多様な文化関係者との公開、非公開の研究集会を実施した。2018年夏には、書簡の表記の特徴について、田中雅和(連携研究者)の表記史についての専門的知見の提供を受けるとともに、翻字についての助言を受けて、翻字のあり方(凡例)を決定していった。2018年9月から10月にかけては、地域の文学、美術関係者と連携して、シンポジウムおよび講演会(公開研究集会)を開催した(福山大学人間文化学部文化フォーラム2018「井伏鱒二未公開書簡から見える井伏鱒二と同時代の備後文化」)。その内容は、第1回が青木美保(研究代表者)の講演「高田類三の文学活動」、第2回が、前田貞昭(研究分担者)・田中雅和(連携研究者)による講演「井伏鱒二の書簡の翻字について」、第3回が谷川充美(研究協力者)による「井伏文学の継承 庄野潤三との関係から」、第4回は、谷藤史彦〔ふくやま美術館相談員(当時)〕による講演「井伏鱒二と備後の芸術家達」である。これによって、研究調査の成果を、地域文化として問題集約するとともに、問題提起として整理した。

4. 研究成果

これらの研究集会での問題整理を踏まえて、2018年には、各研究分野の研究成果を総合するため、研究メンバー全員が集合し、地域の文化人を対象とするシンポジウム「井伏生誕一二〇年記念シンポジウム 井伏鱒二未公開書簡の基礎的研究 「同学コミュニティ」 解明に向けて」を開催した(主催:科研費チーム、2018年11月24日・25日、宮地茂記念館9階ホール)。第1日目は「井伏鱒二の福山中学時代から習作時代を高田類三宛書簡から見る 新資料に基づく研究発表」と題して、前田貞昭(研究分担者)・田中雅和(連携研究者)が「井伏鱒二書簡活字化の諸課題と、井伏伝記研究における書簡の意義」について、青木美保(研究代表者)が「井伏鱒二と高田類三の文化活動 絵画と文学」と題して発表した。第2日目は、基調講演と研究チームによるシンポジウム「備後と東京の文化交流と井伏文学」を実施した。基調講演では、連携研究者2名がそれぞれの専門分野から、日本美術史の田中淳(連携研究者)が「明治末期から大正期にかけての美術と文学」と題して講演、文学史研究の平浩一(研究分担者)が「昭和戦前期文学史上の井伏鱒二」と題して講演して本研究の文化史上の背景について明らかにした。そのうえで、シンポジウム「備後と東京の文化交流と井伏文学」では、青木美保(研究代表者)が研究成果を総合する「「同学コミュニティ」の動静と井伏文学の成立」と題する報告によって問題提起し、それを受けて前田貞昭(研究分担者)の司会によって、平浩一(研究分担者)、田中雅和(連携研究者)を交えて、討議を行った。

また、同時開催で、科研費チーム主催で、23日~25日の3日間、宮地茂記念館(現・社会連携推進センター)804研修室において、シンポジウムなどで言及予定の資料類を展示した「井伏鱒二と仲間たち」も開いた。展示の内容は、井伏書簡11通、高田類三手稿類(自筆歌稿・自筆日記・自筆年譜)、1910年代の美術教育関連資料、福山中学の寮生活関連資料等である。これらと並行して、地域の絵画コレクター、および文学愛好家グループと連携して、絵画展「井伏鱒二と同時代の画家展」も次の要領で開催した(同絵画展実行委員

会主催、日時・場所 2018年11月21日～29日・エフピコR I M七階市民ギャラリーA)。展示においては、井伏鱒二「木蔭」・自画像二点他、絵画等39点(吉田徹コレクション)を展示し、田中淳(連携研究者)・谷藤史彦両氏によるギャラリートーク(11月25日)を実施した。科研費チーム主催シンポジウムに約90名、絵画展「井伏鱒二と同時代の画家展」に約500名の参加があった。ふくやま文学館・福山大学人間文化学部と協力して実施した行事にも多数の参加者があった。それには新聞各紙の報道によるところが大きかったと思われるが、メディアへの発信も含めて、地域に対する井伏文学普及活動として一定の成果を得られたと言ってよい。絵画展では、地域の美術品のコレクター吉田徹氏をはじめ、井伏鱒二文学研究会、ふくやま賢治を読む会等の一般の文学愛好家の協力を得て、文学と美術という分野横断的な研究の成果発表を実現することができた。また、シンポジウムにおいては研究チームが一同に会することで研究成果を共有し、意見交換することによって、研究をさらに進捗させることができた。

以上のように、基調講演、研究発表、シンポジウム、展示という研究成果の多角的な形式による発表、および研究メンバー同士の討議によって、研究目的に挙げた書簡の活字化と、文化史的側面を視野に入れた注解を附すこと、それを通して、ア、旧制福山中学同窓生の文化サロンの活動、イ、その周辺にあった地域の文化活動、ウ、中央の文化との交流の様相の解明という多岐にわたる研究成果の統合を実現することができた。

これらの成果は、研究メンバーそれぞれが論文化して発表した。書簡の表記史上の特徴については、田中雅和(連携研究者)が「井伏鱒二未公開書簡の活字化に関わる諸課題 井伏の手書き資料(書簡・自筆原稿)にみる特徴を踏まえて」(『兵庫教育大学 近代文学雑誌』第29号、兵庫教育大学大学院教科教育実践開発専攻言語系教育コース(国語)前田研究室、2018・2)を発表。井伏の伝記研究においては、前田貞昭(研究分担者)が、福山中学寄宿舎・誠之舎関係の諸記録の調査から井伏の生活の一端について、「井伏鱒二の寄宿舎(福山中学校寄宿舎と誠之舎)在舎時期とその周辺事 福山誠之館同窓会架蔵資料調査から」(『兵庫教育大学 近代文学雑誌』第30号(同上 前田研究室、2019・2)と題して発表。宛名人高田類三の、井伏に先立つ文学活動の実態については、青木美保(研究代表者)が「井伏鱒二未公開書簡の資料的意義 宛名人・高田類三の文学活動解明を通して」(『日本近代文学』第100集、日本近代文学会、2019・5)と題して発表。日本近代文学史における井伏鱒二の新たな位置づけについては、平浩一(研究分担者)が「変容する追憶 井伏鱒二の文学志望に関する回顧と書簡」(『国文学論叢』41号、国士舘大学国文学会、2020・3)と題して発表している。

2020年3月には、これらの成果の集大成として、『報告書 井伏鱒二未公開書簡の基礎的研究 文学の生成と「同学コミュニティ」の関係を視座に』(科研費チーム、2020・3・27)を上梓した。同時に、研究成果の地域への還元として同報告会(2020・3・27、福山大学社会連携推進センター)を開催し、同時開催で、「井伏鱒二未公開書簡の宛名人・高田類三の文学活動と高田家」と題する展示を行った(2020・3・27、社会連携推進センター802研修室)。報告書は、日本近代文学館、神奈川近代文学館をはじめ、大学等研究機関30余か所に送付した。

報告書は、第一章「井伏鱒二書簡翻字と解説」、第二章「論考」、第三章「課題と展望」の三章から構成した。第二章には、前田貞昭(研究分担者)「高田宛書簡の中の井伏鱒二 回想の中の井伏と対比して」、青木美保(研究代表者)「井伏鱒二と高田類三の文学活動」、平浩一(研究分担者)「文学史における井伏鱒二」、田中淳(連携研究者)

「明治末期から大正期にかけての美術と文学」、田中雅和（連携研究者）「井伏鱒二書簡の国語史的位罜」以上五篇の今回の主要な成果を収め、第三章では、前田貞昭（研究分担者）「高田宛書簡による井伏鱒二研究の可能性」、青木美保（研究代表者）「井伏鱒二を視座とする文学史への今後の展望」によって今後の課題を展望した。

これらの研究成果を踏まえて、科研費「作家の文学形成と「地方同学コミュニティ」の研究 井伏・高田と宮沢賢治の場合」（研究代表者青木美保 2020年度～2024年度）を申請、採択された。文学史における1910年代～1920年代を考察するため、他地域での共時的研究で続行する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 前田貞昭	4. 巻 30号
2. 論文標題 井伏鱒二の寄宿舎（福山中学校寄宿舎と誠之舎）在舎時期とその周辺事 福山誠之館同窓会架蔵資料調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 兵庫教育大学近代文学雑誌	6. 最初と最後の頁 3-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://repository.hyogo-u.ac.jp/dspace/handle/10132/17771	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木（秋枝）美保	4. 巻 100
2. 論文標題 井伏鱒二未公開書簡の資料的意義 宛名人・高田類三の文学活動解明を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中雅和	4. 巻 29
2. 論文標題 井伏鱒二未公開書簡の活字化に関わる諸課題：井伏の手書き資料（書簡・自筆原稿）にみる特徴を踏まえて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 兵庫教育大学近代文学雑誌	6. 最初と最後の頁 13、31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://repository.hyogo-u.ac.jp/dspace/bitstream/10132/17276	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平 浩一 (HIRA Koichi) (00583543)	国士館大学・文学部・教授 (32616)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	前田 貞昭 (MAEDA Sadaaki) (60144797)	兵庫教育大学・その他部局等・名誉教授 (14503)	
研究 協力者	谷川 充美 (TANIGAWA Masami)		
連携 研究者	田中 淳 (TANAKA Atsushi) (00163501)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・その他部局 等・客員研究員 (82620)	
連携 研究者	田中 雅和 (TANAKA Masakazu) (40155164)	兵庫教育大学・言語系教科マネジメントコース・教授 (14503)	